



Sun Blade™ T6300 サーバー モジュール設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-0919-10
2007 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、OpenBoot、Java、Sun Blade、J2EE、JumpStart、Sun BluePrints は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Blade T6300 Server Module Installation Guide
	Part No: 820-0275-10
	Revision A



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 設置前の準備作業 1
 - ハードウェアの概要 1
 - 物理仕様 2
 - 環境要件 2
 - フロントパネルの機能 3
 - ドングルケーブル 4
 - ALOM CMT による遠隔管理 5
2. 設置および構成 7
 - モジュールの取り扱い 7
 - モジュールのシャーシへの設置 8
 - ▼ モジュールを設置する 8
 - サーバーモジュールの電源投入 10
 - ▼ サーバーモジュールに電源を入れる 10
 - オペレーティングシステムのハードドライブへのインストール 10
 - JumpStart サーバーのインストール 11
 - JumpStart サーバーの構成 11

はじめに

このマニュアルでは、Sun Blade™ T6300 サーバーモジュールに関する一般的な情報と、Sun Blade T6000 シャーシへのサーバーモジュールの設置方法について説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、ファイルのコピー、ディレクトリの一覧表示、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
最新情報	『Sun Blade T6300 Server Module Product Notes』	820-0278	HTML 形式 および PDF 形式	オンライン
管理	『Sun Blade T6300 サーバーモジュール管理マニュアル』	820-0927	PDF 形式	オンライン
保守	『Sun Blade T6300 Server Module Service Manual』	820-0276	HTML 形式 および PDF 形式	オンライン
安全性と適合性	『Sun Blade T6300 Server Module Safety and Compliance Manual』	820-0279	HTML 形式 および PDF 形式	オンライン
ALOM	『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』	820-0669	PDF 形式	オンライン

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Blade T6300 サーバーモジュール設置マニュアル』、Part No. 820-0919-10

第1章

設置前の準備作業

この章では、Sun Blade T6300 サーバーモジュールのハードウェアおよびソフトウェアの機能を理解するために役立つ一般的な情報について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「ハードウェアの概要」
- 2 ページの「物理仕様」
- 2 ページの「環境要件」
- 3 ページの「フロントパネルの機能」
- 4 ページの「ドングルケーブル」
- 5 ページの「ALOM CMT による遠隔管理」

ハードウェアの概要

Sun Blade T6300 サーバーモジュールには、次のハードウェア機能があります。

- 6 コアまたは 8 コア、32 スレッドの CPU 1 つ、最高 1.4 GHz
- 最大 32G バイトのメモリーをサポートする DIMM スロット 8 つ
- デュアルギガビット Ethernet コントローラ 1 つ
- SAS/SATA コントローラ 1 つ
- SAS/SATA ドライブ 1 ～ 4 つ (オプション)
- ドングルケーブルに接続する USB ポート 2 つ (ドングルケーブルはオプション)
- ドングルケーブルに接続する DB9 ポート 1 つ
- ドングルケーブルに接続する RJ-45 シリアル仮想コンソールポート 1 つ

物理仕様

Sun Blade T6300 サーバーモジュールは約 12.6 × 19.5 インチで、1U のフォームファクタに適合します。このサーバーモジュールを 10U シャーシに差し込みます。シャーシは、6 つの冗長ファンによる冷却機能と 12 V の電源を各モジュールに提供します。シャーシは、12 V の電源のほかに 3.3 VAUX を各モジュールに提供して、ローカルの FRU ID EEPROM に電力を供給します。この電力によって、シャーシ管理モジュール (CMM) は、12 V の電源およびファンアプリケーションより先に各モジュールスロットに対してクエリーを実行し、シャーシに取り付けたモジュールの数と種類をサポートできるだけの十分な電力と冷却機能があることを検証できます。

環境要件

表 1-1 に、Sun Blade T6300 サーバーモジュールに固有の環境要件を示します。

表 1-1 Sun Blade T6300 サーバーモジュールの環境要件

状態	要件
動作時の温度	5 ~ 35 °C、結露なし
非動作時の温度	-40 ~ 65 °C
動作時の湿度	10 ~ 90%、結露なし (最高湿球温度 27 °C)
非動作時の湿度	93%、結露なし (最高湿球温度 38 °C)
動作時の高度	35 °C で 3000 m
非動作時の高度	12,000 m

フロントパネルの機能

この節では、フロントパネルの図を機能の説明とともに示します。

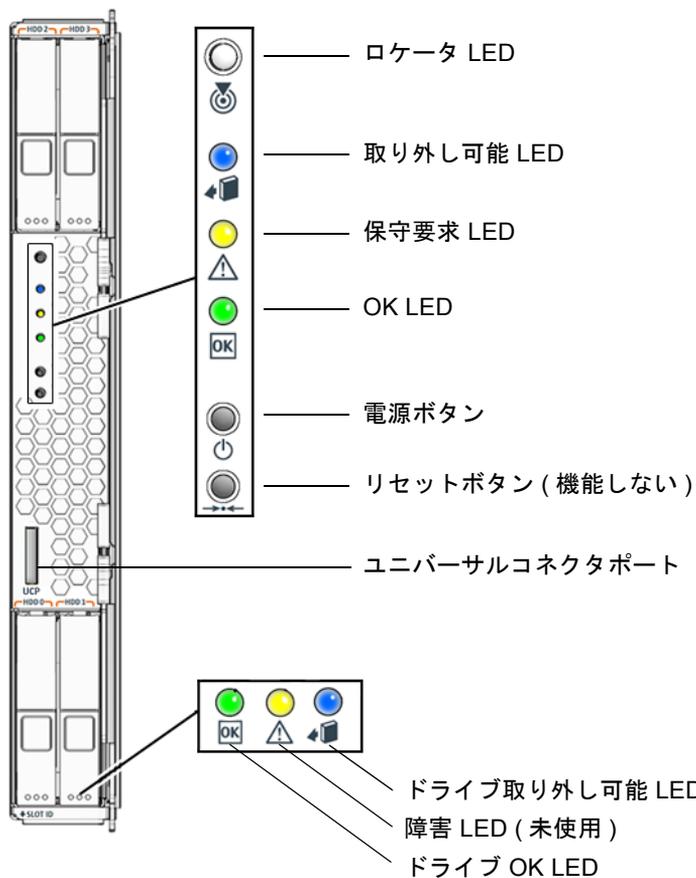


図 1-1 Sun Blade T6300 サーバーモジュールのフロントパネル

ドングルケーブル

ドングルケーブルは Sun Blade T6300 サーバーモジュールとともに注文するか、または Sun Blade T6000 シャーシに付属のドングルケーブルを使用できます。図 1-2 に、ドングルケーブルの接続方法を示します。

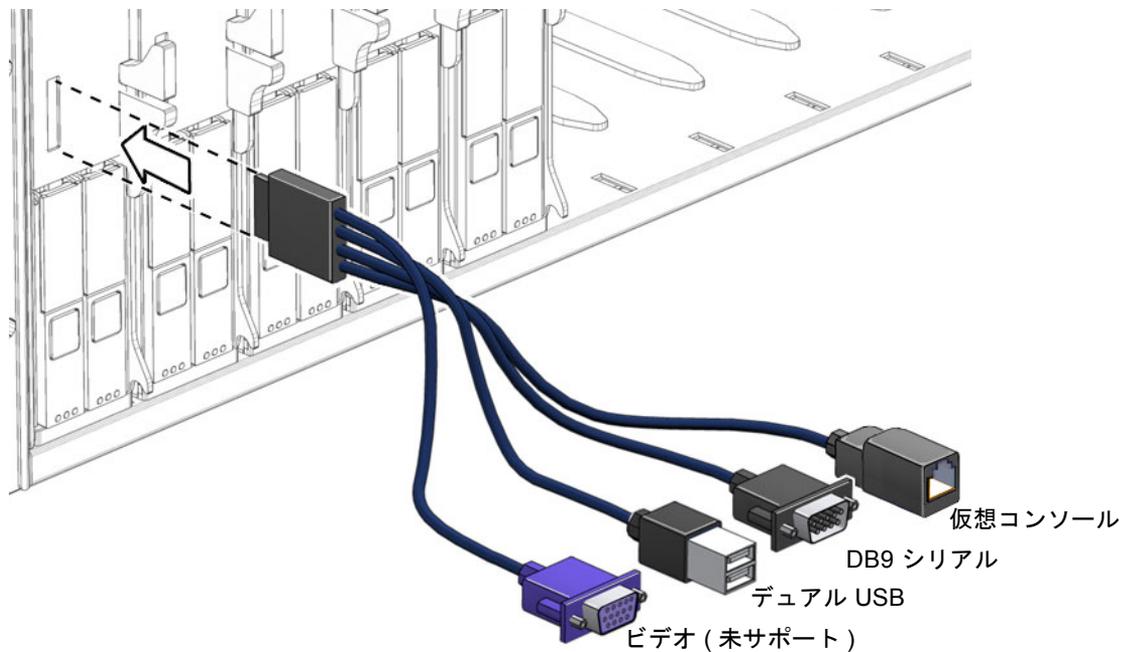


図 1-2 ドングルケーブルの接続

ALOM CMT による遠隔管理

Sun Advanced Lights Out Management (ALOM CMT) 機能は、Sun Blade T6300 サーバーモジュールの遠隔管理を可能にするシステムコントローラです。

ALOM CMT ソフトウェアはファームウェアとしてプリインストールされていて、システムに電源を入れるとすぐに初期化されます。ALOM CMT は、使用する個々のインストール環境で動作するようにカスタマイズできます。

ALOM CMT を使用すると、ネットワークを介して、あるいは端末または端末サーバーに接続する専用のシリアルポートを使用して、サーバーを監視し制御できます。ALOM CMT が提供するコマンド行インタフェースを使用すると、地理的に分散されたマシンまたは物理的にアクセスできないマシンを遠隔から管理できます。また、ALOM CMT によって、通常はサーバーのシリアルポートに物理的に近い場所で実行する必要がある POST などの診断を遠隔から実行できます。

ハードウェア障害、ハードウェア警告、サーバーまたは ALOM CMT に関連するその他のイベントの電子メール警告を送信するように ALOM CMT を設定できます。ALOM CMT 回路は、サーバーのスタンバイ電力を使用して、サーバーから独立して動作します。このため、ALOM CMT のファームウェアおよびソフトウェアは、サーバーのオペレーティングシステムがオフラインになった場合、またはサーバーの電源が切断された場合でも引き続き機能します。ALOM CMT は、次の Sun Blade T6300 サーバーモジュールコンポーネントを監視します。

- CPU の温度状態
- ディスクドライブの状態
- ファンの回転速度および状態
- 電圧状態

ALOM システムコントローラの構成および使用方法については、『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド』(820-0669) を参照してください。

第2章

設置および構成

Sun Blade T6300 サーバーモジュールの機能およびコンポーネントを理解したら、この章の手順を使用してシャーシにサーバーを設置します。

この章は、次の節で構成されています。

- 7 ページの「モジュールの取り扱い」
- 8 ページの「モジュールのシャーシへの設置」
- 10 ページの「サーバーモジュールの電源投入」
- 10 ページの「オペレーティングシステムのハードドライブへのインストール」

モジュールの取り扱い

電子機器は、静電気によって損傷する可能性があります。Sun Blade T6300 サーバーモジュールを設置するときは、アースされた静電気防止用リストストラップ、フットストラップ、または同等の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防いでください。



注意 – 電子コンポーネントが静電気によって損傷すると、システムが永久に使用できなくなるか、Sun の保守技術者による修復が必要になることがあります。電子コンポーネントを静電気による損傷から保護するには、静電気防止用マット、静電気防止袋、使い捨て静電気防止用マットなどの静電気防止面にコンポーネントを置いてください。システムコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電防止用アースストラップを着用してください。

モジュールのシャーシへの設置

この節では、モジュールをシャーシに設置する方法について説明します。

注 – 以降の手順は、端末が端末サーバーに接続され、端末サーバーがシャーシに接続され、シャーシのネットワーク管理ポートが設定されていることを前提にしています。この前提が満たされていない場合は、『Sun Blade T6000 Chassis Installation Guide』の、ネットワーク管理ポートの設定方法を参照してください。

▼ モジュールを設置する

1. 出荷用梱包箱およびサーバーモジュールに付いているラベルで、MAC アドレスとシリアル番号を確認します。
2. シャーシで使用するスロットの位置を確認します。
3. 必要に応じてフィラーパネルを取り外します。
4. サーバーモジュールにドングルケーブルを取り付けます。
5. ドングルケーブルの仮想コンソールコネクタに、端末サーバーのシリアルケーブルを取り付けます。

ALOM CMT ソフトウェアの起動メッセージを確認するため、サーバーモジュールを挿入する前に、端末サーバーをドングルケーブルに接続する必要があります。

6. ラッチ金具が右側になるように、サーバーモジュールを垂直に配置します。

次の図に、サーバーモジュールのシャーシへの挿入方法を示します。

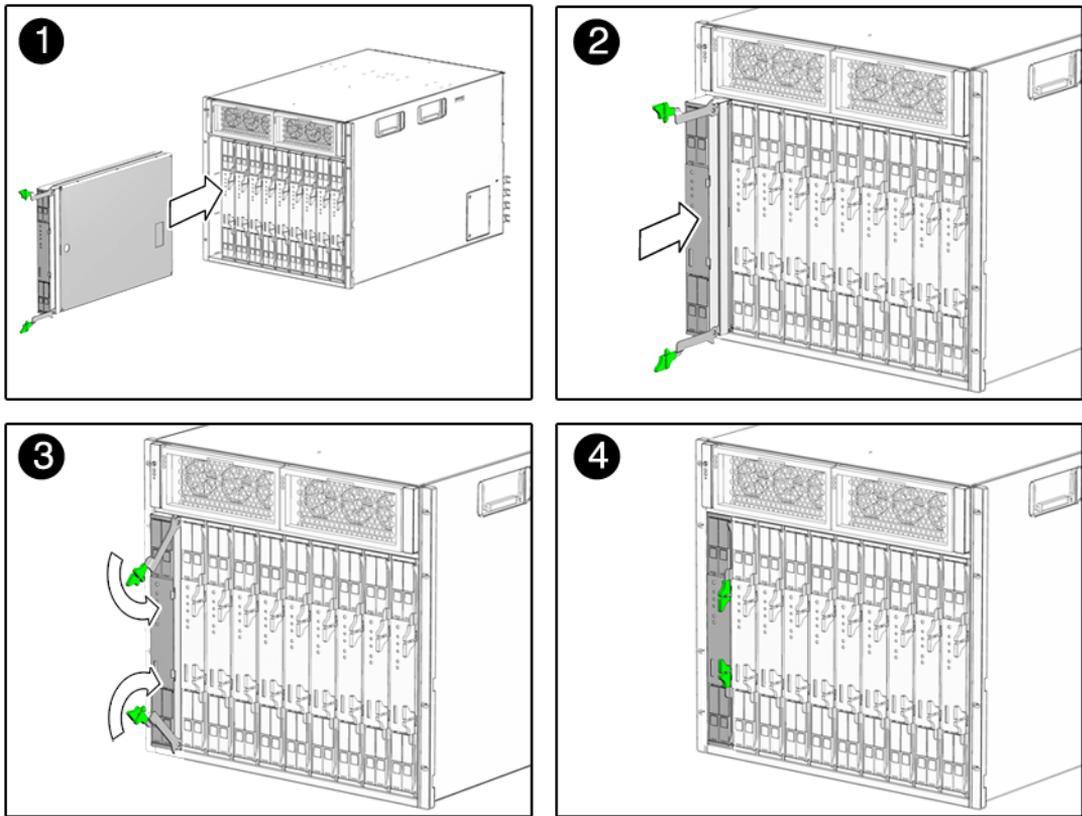


図 2-1 Sun Blade T6300 サーバーモジュールのシャーシへの挿入

7. サーバーモジュールをスロットに入れ、シャーシの正面から約 2 インチ手前の位置まで押し込みます。
8. ラッチ金具を押し、カチッと音を立ててかみ合うまで押し下げます。

シャーシにサーバーモジュールを挿入するとすぐに、サーバーモジュールがスタンバイモードになり、ALOM CMT システムコントローラが初期化されます。

サーバーモジュールの電源投入

システムコントローラが起動すると、シリアルコンソールにシステムコントローラのログインプロンプトが表示されます。この節の手順を使用して、システムコントローラにログインし、サーバーモジュールに電源を入れます。

▼ サーバーモジュールに電源を入れる

1. デフォルトの `admin` ユーザーとして、システムコントローラにログインします。

2. パスワードプロンプトで `Enter` キーを押します。

デフォルトでは、サーバーモジュールは `admin` アカウントにパスワードを設定しない状態で出荷されます。サーバーモジュールに電源を入れる前に、`password` コマンドを使用してパスワードを設定してください。

3. `password` コマンドを使用して、`admin` パスワードを設定します。

```
sc> password new-password
```

4. `poweron -c` コマンドを実行します。

システムコンソールに `sc>` 警告メッセージが表示されます。これは、システムがリセットされたことを示しています。`poweron` コマンドを実行すると、CPU およびメモリーコントローラが初期化され、最後に `OpenBoot™ PROM` ファームウェアが初期化されます。多くのシステムメッセージが表示されたあと、`ok` プロンプトが表示されます。

オペレーティングシステムのハードドライブへのインストール

基本構成の Sun Blade T6300 サーバーモジュールは、ハードドライブが空の状態か、またはハードドライブなしで出荷されます。オプションのハードドライブを注文し、スロット 0 のハードドライブに Solaris OS をインストールする場合は、ネットワークからオペレーティングシステムをインストールする必要があります。

ネットワークからオペレーティングシステムをインストールする方法については、『Solaris 10 6/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。このマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://docs.sun.com/>

JumpStart サーバーのインストール

JumpStart™ サーバーを使用して OS をインストールすることができます。

JumpStart サーバーは、次の複数のコンポーネントで構成されます。

- インストールクライアント – インストールまたはアップグレードするターゲットシステム。
- 起動サーバー – インストールクライアントにフェイルセーフオペレーティングシステムを提供するネットワーク。

起動イメージはアーキテクチャーに依存せず、オペレーティングシステムのそのリリースがサポートするすべてのハードウェアに、基本的なオペレーティングシステムサービスを提供します。起動サーバーは、RARP、TFTP、および bootparam サービスを提供します。

- 構成サーバー – クライアントシステムが固有のプロファイル情報を確認するために役立つシステム。

構成サーバーが提供するプロファイルには、パーティションのサイズ、インストールするソフトウェアコンポーネントのリスト、開始および終了スクリプト、その他の情報が指定されます。

- インストールサーバー – クライアントにインストールされるソフトウェアパッケージのソース。

注 – 起動サーバー、構成サーバー、およびインストールサーバーは 1 台のサーバーにすることができます。物理的にサーバーを分ける必要はありません。

JumpStart サーバーの構成

このマニュアルでは、JumpStart サーバーを構成する具体的な手順は説明しません。ただし、JumpStart サーバーの構成には次の作業が含まれます。

1. Solaris OS の読み込み
2. 構成サーバーの作成
3. 構成ファイルの作成
4. 構成ファイルの構文の確認

5. インストールディレクトリの共有
6. NFS サーバーの起動
7. クライアントアクセスの構成

JumpStart サーバーの構成および使用方法は、使用するネットワーク構成によって異なります。JumpStart サーバーの構成に関する手順および説明の詳細は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Configuring JumpStart Servers to Provision Sun x86-64 Systems』、Pierre Reynes 著、Network Systems Group、Sun BluePrints™ OnLine、2005 年 2 月
- 『Building a JumpStart Infrastructure』、Alex Noordergraaf 著、Enterprise Engineering、Sun BluePrints OnLine、2001 年 4 月

これらのマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

<http://www.sun.com/blueprints>